

先住民族多住地域の社会学的研究

——札幌市・むかわ町・新ひだか町・伊達市・白糠町を対象にして——

北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室

2016

先住民族多住地域の社会学的研究

——札幌市・むかわ町・新ひだか町・伊達市・白糠町を対象にして——

小内 透 編著

はしがき

2007年9月、「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が、国連総会において賛成多数により採択された。わが国も宣言の採択にあたり賛成票を投じ、2008年6月には衆参両院で「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が全会一致で可決された。一昨年まで、国連による第二次「世界の先住民の国際の10年」(2005～2014年)が取り組まれ、現在も世界各国で宣言を実質的なものとするための取り組みが求められている。それは、わが国においても同様である。

このような状況の下で、私たちの研究グループは、アイヌ民族の復権をめぐる議論の基礎資料を得るために、アイヌ民族の現状と課題、比較対象として北欧の先住民族、サーミの現状と課題に関する4年間の社会学的な実証研究のプロジェクトを立ち上げた。4年の間に、アイヌの人々が多く居住する北海道の新ひだか町、伊達市、白糠町における調査研究、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドのサーミに関する調査研究を行った。アイヌ調査の結果は、それぞれの地域毎に『調査と社会理論』研究報告書30、31、33、サーミ調査の結果は同報告書29、32、34および野崎剛毅編著『スウェーデン・サーミの生活と意識』としてまとめている。

本報告書は、4年間にわたる北海道の新ひだか町、伊達市、白糠町を対象にしたアイヌ調査結果に北海道大学アイヌ・先住民研究センターの社会調査プロジェクトとして取り組んだ2008・2009・2014年の札幌市およびむかわ町の調査結果（これらは私たちの研究グループの多くが関わり、センターの『北海道アイヌ民族生活実態調査報告』その1～その4としてまとめられている）を加え、アイヌの人々が多く居住する地域の全体的な特徴を明らかにしようとしたものである。

本報告書のもとになった郵送アンケート調査・面接調査では各地のアイヌ民族や地域住民の方々に協力していただいた。調査の準備および実施にあたっては、北海道アイヌ協会および各地域のアイヌ協会（元北海道アイヌ協会支部ないし元北海道ウタリ協会支部）の関係者にお世話になった。また、調査メンバーとして、本報告書執筆者以外に、北海道大学アイヌ・先住民研究センターの教職員および北海道大学大学院教育学院の院生、同教育学部の学生の協力を得た。本研究を支えて頂いた皆様に、この場を借りてお礼を申し上げる。

(付記) 本報告書は、平成24～27年度の日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究A）（研究課題「先住民族の労働・生活・意識の変容と政策課題に関する実証的研究」、研究代表者・小内透、課題番号24243055）および平成23～26年度の日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B）（研究課題「先住民族の教育実態とその保障に関する実証的研究」、研究代表者・野崎剛毅23330247）にもとづく研究成果である。

なお、本研究は、北海道大学アイヌ・先住民研究センターの第二期社会調査プロジェクトとしても位置づけられている。

北海道大学大学院教育学研究院

北海道大学アイヌ・先住民研究センター（兼務）

小内 透

目 次

はしがき

序 章 本報告書の位置づけと構成	小内 透
第1節 本報告書の位置づけ	1
第2節 調査対象と調査方法	2

第1部 アイヌの人々の生活の歩みと意識

第1章 アイヌの家族形成と子育て	品川ひろみ
はじめに	11
第1節 対象者の概要とアイヌの血筋	11
第2節 家族形成	14
第3節 世帯の状況	17
第4節 アイヌの子育て	19
おわりに	24

第2章 職歴と階層形成	野崎 剛毅
第1節 課題の設定とデータ	27
第2節 「アイヌ民族に特有な職」と階層	31
第3節 まとめ	42

第3章 現代におけるアイヌ差別	佐々木千夏
はじめに	45
第1節 被差別経験率の量的把握	45
第2節 被差別エピソードの内容分析	47
第3節 民族内差別の諸相	60
第4節 まとめと考察	67

第4章 アイヌ文化の実践と内容	上山浩次郎・世良 尚也
はじめに	71
第1節 視点と方法	71
第2節 過去のアイヌ文化の実践内容	76
第3節 現在のアイヌ文化の実践内容	89
おわりに	94

第5章 エスニック・アイデンティティの形成と変容	新藤こずえ
はじめに	97
第1節 エスニック・アイデンティティの地域性	97
第2節 年齢層別のエスニック・アイデンティティ	99
第3節 アイヌ文化の実践とアイヌ協会への関わり	103
第4節 エスニック・アイデンティティと今後	109
おわりに	115

第6章 アイヌの人々のメディア利用と情報発信	小内 純子
第1節 先住民族メディアの役割と問題意識	117
第2節 アイヌ民族が持つ先住民族メディアの現在	118
第3節 アイヌの人々のメディア接触	122
第4節 マスメディアの報道姿勢とアイヌ民族の情報発信	125
おわりに	128

第2部 地域住民とアイヌの人々との関わり

第7章 接触・交流と社会関係——各地域の比較検討から見えてくるもの——	小野寺理佳
はじめに	137
第1節 各地域の交流の全体像	137
第2節 生活史における交流	138
第3節 現在の生活における交流	150
第4節 親密な交流としての結婚	166
おわりに	172
第8章 アイヌ文化の知識と体験	上山浩次郎
はじめに	177
第1節 アイヌ文化の知識と体験の特徴	177
第2節 アイヌ文化の情報源	186
第3節 アイヌ文化の現状と今後	197
おわりに	208
第9章 アイヌ政策への評価	濱田 国佑
はじめに	213
第1節 調査地域および調査の概要	214
第2節 各地域における政策支持の状況	215
第3節 アイヌ政策に対する支持の規定要因	222
第4節 まとめ	227
第10章 地域の意識・行動とアイヌ民族との交流・意識	新藤 慶
はじめに	229
第1節 居住地域の意識と行動	229
第2節 地域の意識・行動から見たアイヌの人々との交流	238
第3節 地域の意識・行動から見たアイヌ語・アイヌ文化の保存に対する意識	245
第4節 地域の意識・行動から見たアイヌ民族への経済的援助に対する意識	247
第5節 地域の意識・行動から見たアイヌ民族への教育支援に対する意識	249
第6節 一般住民から見たアイヌの人々をめぐる状況	251
まとめ——地域づくりとパラレルに高まるアイヌとの交流・意識	255
終 章 調査報告のまとめ	小内 透
	259